

# 清須城出土金箔押軒瓦の 基礎的整理

● 鈴木 正貴

本稿では清須城から出土した金箔押軒瓦について、金箔の状態や施された位置などを整理して、瓦当面紋様の型式分類による相違をまとめた。その結果、大部分の瓦は凸面金箔が施されていたが、相対的に古いと考えられてきた軒丸瓦 M151 型式と軒平瓦 H111 型式などで凹面金箔が押されていることが明瞭となった。

本稿では清須城から出土した金箔押軒瓦について整理し、その傾向をまとめる。

## 1. これまでの検討 (研究史)

清須城から出土した軒瓦について最初に整理したのは小澤一弘である。小澤は名古屋環状2号線建設に伴う清洲城下町遺跡(および朝日西遺跡)の発掘調査で出土した瓦について、軒丸瓦を9類(I類、II a1類、II a2類、II a3類、II b1類、II b2類、II c類、III類、IV類)、軒平瓦を8類(I類、II a1類、II a2類、II b類、II c1類、II c2類、III類、IV類)に分類した。そしてこのうち軒丸瓦II a2類には「外区の周縁には9mm間隔で三角形の金箔がはってある」と指摘した(小澤1987)。

この資料を報告書で再整理したのが鈴木とよ江である。鈴木は小澤の分類を踏襲する形で資料紹介し、軒丸瓦II a2類は凸部に金箔、II b1類は凹部分と周縁部分(凸部)に金箔を張ったものと凹部に金箔が張ったものがあると指摘した。その上で軒瓦の変遷を3段階に整理し、天正7年(1579)に織田信雄により築城された松ヶ島城では凸部に金箔のあるものと凹部に金箔のあるものの両者が存在することから軒丸瓦II b1類は信雄が尾張を統治するようになった天正10年(1582)以降から天正13年11月の天正地震までの段階のものとして推定した(鈴木1992)。ただし、今回改めて観察すると、凸部に金箔のある軒丸瓦II b1類と凹部に金箔のある軒丸瓦II b1類は同一型式とは認められないことが判明した。

また、中村博司は1978年には清須城の金箔

瓦は天正18年(1590)に入部した豊臣秀次に関わると考えた(中村1978)。その後この報告を受けて、軒丸瓦と軒平瓦のセット関係と金箔の在り方に安定性を欠くなどの指摘をし、2段階の金箔瓦は他所から搬入・転用されたものが中心と推定した。

その後、五条川河川改修に伴う発掘調査が進み、筆者はまず本丸地点以外の調査区から出土した軒瓦の資料紹介を行った。軒丸瓦は9類(I類、II a1類、II a2類、II a3類、II a4類、II b1類、II c類、III類、IV類)、軒平瓦を8類(II a2類、II b類、II c1類、II c2類、II c3類、II d類、II f類、IV b類)が確認され、軒丸瓦II a1類、軒丸瓦IV類、軒平瓦II c3類、軒平瓦IV b類と分類未設定の軒平瓦1種の5類に金箔が押されている。この報告では凹面金箔か凸面金箔かの区分が行われておらず、検討が不十分であったことは否めない(鈴木1994)。

次いで、筆者は本丸南東部の92F区、93C区、94A区から出土した瓦の詳細な検討を実施した。軒瓦については分類の基準を変更し、軒丸瓦は27類(M101型式、M121a型式、M121b型式、M121c型式、M122a型式、M122b型式、M122c型式、M123a型式、M123b型式、M124a型式、M124b型式、M131型式、M132型式、M151型式、M161型式、M211型式、M221a型式、M221b型式、M231型式、M241a型式、M241b型式、M251型式、M341a型式、M341b型式、M341c型式、M341d型式、M441型式)、軒平瓦を21類(H101型式、H102a型式、H102b型式、H111型式、H112a型式、H112b型式、H131型式、H211型式、H212型式、H213型式、H214型式、

H215 型式、H221 型式、H222 型式、H331 型式、H332 型式、H333 型式、H341 型式、H351 型式、H491a 型式、H491b 型式) に細分した。しかし、金箔に関しては M151 型式が凹部に金箔が押され、H102b 型式が中心飾部に金箔が押されていた可能性を指摘したに止まっている(鈴木 1997)。

さらに、筆者は 94A 区などに隣接する本丸南東部の 96 区、97C 区から出土した瓦の資料紹介を実施した。軒瓦については(鈴木 1997)分類を踏襲したが、M121 型式、M122 型式、M123 型式、M124 型式などについては分類を系統的に整理することが困難となり細分を見送った反面、新種(M271 型式、M351 型式)も発見された。結果、軒丸瓦は 18 類(M101 型式、M121 型式、M122 型式、M123 型式、M124 型式、M131 型式、M132 型式、M151 型式、M161 型式、M211 型式、M221 型式、M231 型式、M241 型式、M251 型式、M271 型式、M341 型式、M351 型式、M441 型式)、軒平瓦についても H331 型式と H333 型式が同一の可能性が高くなるなどの知見が加わり、18 類(H101 型式、H102a 型式、H102b 型式、H111 型式、H112 型式、H131 型式、H211 型式、H212 型式、H213 型式、H214 型式、H215 型式、H221 型式、H222 型式、H331 型式、H332 型式、H341 型式、H351 型式、H491 型式)に細分した。

そして、金箔押軒瓦に関しては項目を設けて若干の整理を実施した。軒丸瓦については、金箔が紋様本体ではない平坦な地の部分(凹部)に押されたものを 1 類、紋様本体の張り出した部分に押されたものを 2 類と区分した。結果、M151 型式と M161 型式は 1 類金箔押軒丸瓦、M251 型式は 2 類金箔押軒丸瓦と整理した。一方、軒平瓦については、金箔が中心飾り紋様のみに押されたものを 1 類、紋様本体ではない平坦な地の部分(凹部)に押されたものを 2 類、中心飾りと両脇の唐草紋の両方に金箔が押されたものを 3 類と区分した。結果、H101 型式と H131 型式と H331 型式は 1 類金箔押軒平瓦、H111 型式は 2 類金箔押軒丸瓦、H214 型式と H491 型式は 3 類金箔押軒平瓦と整理した。

## 2. 軒瓦の分類

上述のように、清須城に関わる軒瓦の分類は大きく 2 種存在する。小澤分類(および鈴木とよ江分類)は大分類に紋様構成を採用したのに対し、鈴木正貴分類は規模を優先して分類しており、方法論が根本から異なる。理論上どちらの分類を採用しても細分は可能なはずであるが、より多くの資料がすでに分類されている後者の方法を用いるのが無用な混乱を招かないものと考え、後者の分類を基準にして再検討する。

軒丸瓦はまず瓦当面の大きさを 4 種に大別し合計 21 類に区分した。

軒丸瓦 M101 型式：五七桐紋大型軒丸瓦。

軒丸瓦 M102 型式：五三桐紋大型軒丸瓦。小澤分類 I 類軒丸瓦。

軒丸瓦 M121 型式：左巻三巴紋に 16 珠紋大型軒丸瓦 1 類。巴の形状が全体としてなだらかとなり、珠紋は高く大きい。

軒丸瓦 M122 型式：左巻三巴紋に 16 珠紋大型軒丸瓦 2 類。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付く形となり、巴紋どうしの間隔は狭い。

軒丸瓦 M123 型式：左巻三巴紋に 16 珠紋大型軒丸瓦 3 類。巴の形状が全体としてなだらかとなり、珠紋は低く小さい。

軒丸瓦 M124 型式：左巻三巴紋に 16 珠紋大型軒丸瓦 4 類。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付く形となり、巴紋どうしの間隔は広い。

軒丸瓦 M131 型式：左巻三巴紋に 12 珠紋大型軒丸瓦 1 類。巴の尾部が細く、珠紋は低い。

軒丸瓦 M132 型式：左巻三巴紋に 12 珠紋大型軒丸瓦 2 類。巴の尾部が太く短く、珠紋は大きい。

軒丸瓦 M151 型式：右巻三巴紋に 12 珠紋大型軒丸瓦。巴の尾部が細長く伸びて隣の巴に接する。

軒丸瓦 M161 型式：左巻三巴紋に 15 珠紋大型軒丸瓦。巴の形状が歪となる。

軒丸瓦 M211 型式：左巻三巴紋に 20 珠紋中型軒丸瓦。

軒丸瓦 M221 型式：左巻三巴紋に 16 珠紋中型軒丸瓦。

軒丸瓦 M231 型式：左巻三巴紋に 12 珠紋中型

軒丸瓦。

軒丸瓦 M241 型式：左巻三巴紋に 8 珠紋中型軒丸瓦。

軒丸瓦 M251 型式：右巻三巴紋に 12 珠紋中型軒丸瓦。

軒丸瓦 M252 型式：右巻三巴紋に 16 珠紋中型軒丸瓦。小澤分類Ⅱ b2 類軒丸瓦

軒丸瓦 M261 型式：左巻三巴紋に 15 珠紋中型軒丸瓦。これまで設定されていない分類である

軒丸瓦 M271 型式：左巻三巴紋に 17 珠紋中型軒丸瓦。

軒丸瓦 M341 型式：左巻三巴紋に 8 珠紋小型軒丸瓦。

軒丸瓦 M351 型式：右巻三巴紋に 12 珠紋小型軒丸瓦。

軒丸瓦 M441 型式：左巻三巴紋に 8 珠紋超小型軒丸瓦。

次に軒平瓦を検討する。軒平瓦もまず瓦当面の大きさを 4 種に大別し合計 22 類に区分した。軒平瓦 H101 型式：五三桐紋に 4 反転均整唐草紋大型軒平瓦 1 類。両端の唐草が中位の高さから始まるもの。

軒平瓦 H102 型式：五三桐紋に 4 反転均整唐草紋大型軒平瓦 2 類。両端の唐草が下位の高さから始まるもの。

軒平瓦 H111 型式：三子葉紋に 3 反転均整唐草紋大型軒平瓦。

軒平瓦 H112 型式：三子葉紋に 4 反転均整唐草紋大型軒平瓦。

軒平瓦 H131 型式：桔梗紋に 4 反転均整唐草紋大型軒平瓦。

軒平瓦 H151 型式：剣菱紋に 5 順転均整唐草紋大型軒平瓦。小澤分類Ⅲ b 類軒平瓦。

軒平瓦 H211 型式：三子葉紋に 2 反転均整唐草紋中型軒平瓦 1 類。三子葉紋は各子葉が長くシャープで先端が明瞭に三又に分かれる。

軒平瓦 H212 型式：三子葉紋に 2 反転均整唐草紋中型軒平瓦 2 類。三子葉紋は各子葉が幅広い剣菱状となる。

軒平瓦 H213 型式：三子葉紋に 3 反転均整唐草紋中型軒平瓦 1 類。三子葉紋は各子葉が幅狭い剣菱状となる。

軒平瓦 H214 型式：三子葉紋に 3 反転均整唐草紋中型軒平瓦 2 類。三子葉紋は各子葉が短く丸

みを帯び、両端の子葉は特に幅広い。

軒平瓦 H215 型式：三子葉紋に 2 反転均整唐草紋中型軒平瓦 3 類。三子葉紋は各子葉が長く先端が尖る。

軒平瓦 H221 型式：五子葉紋に 2 反転均整唐草紋中型軒平瓦 1 類。両側の唐草紋の先端が内側に十分に巻き込んでいる。

軒平瓦 H222 型式：五子葉紋に 2 反転均整唐草紋中型軒平瓦 2 類。両側の唐草紋の先端が内側にあまり巻き込まない。

軒平瓦 H251 型式：剣菱紋に 3 順転均整唐草紋中型軒平瓦。小澤分類Ⅲ a 類軒平瓦。

軒平瓦 H311 型式：三子葉紋に 2 反転均整唐草紋小型軒平瓦。小澤分類Ⅱ c5 類軒平瓦。

軒平瓦 H331 型式：桔梗紋に 3 反転均整唐草紋小型軒平瓦 1 類。桔梗紋の外角線の入角部から内側に伸びる線がある。かつて H333 型式と分類したものと接合したため、ここでは H333 型式も同類とする。

軒平瓦 H332 型式：桔梗紋に 3 反転均整唐草紋小型軒平瓦 2 類。桔梗紋の外角線の入角部から内側に伸びる線がない。

軒平瓦 H341 型式：三角形紋に 3 反転均整唐草紋小型軒平瓦。

軒平瓦 H351 型式：剣菱紋に 4 反転均整唐草紋小型軒平瓦。

軒平瓦 H352 型式：剣菱紋に 3 順転均整唐草紋小型軒平瓦。小澤分類Ⅲ 類軒平瓦。

軒平瓦 H491 型式：6 順転均整唐草紋超小型軒平瓦。

この他に中心飾りが不明な大型軒平瓦（軒平瓦 H199 型式：図 3-50）がある。

### 3. 金箔押軒瓦の分類

清須城に関わる出土金箔押軒瓦は現在 82 点を確認されている。報告書では『清洲城下町遺跡Ⅱ』分で 3 点（図掲載軒丸瓦 3 点）、『清洲城下町遺跡Ⅳ』分で 5 点（図掲載軒丸瓦 2 点と軒平瓦 3 点）、『清洲城下町遺跡Ⅶ』分で 27 点（図掲載軒丸瓦 3 点と軒平瓦 6 点および一覧表のみ掲載軒丸瓦 4 点と軒平瓦 14 点）、『清洲城下町遺跡Ⅷ』分で 55 点（図掲載軒丸瓦 19 点と軒平瓦 17 点および一覧表のみ掲載軒丸瓦 9 点と軒

平瓦 10 点) の合計 90 点が紹介されている (表 1)。今回これらを調査した結果、金箔の痕跡が見られないものや軒先瓦でないものが 8 点含まれており、これらを除いたものが今回の分析の対象となる。

金箔が施された部位については、従来から凹面金箔と凸面金箔に分類して研究されており、天正 10 年 (1582) を境に凹面金箔から凸面金箔へ (または金箔蒔技法から金箔押技法へ) と変化したといわれている (中村 1995)。清須城の金箔押軒瓦の場合はその両者が存在するが、残存状況が不良なものが多いなどの理由から、金箔が中心飾り紋様のみを押された軒平瓦などが凹面金箔か凸面金箔かの判断が難しいものがある。そこで金箔が施された部位を細かく分けてその傾向を整理しておきたい。

まず、金箔の残存状況については、一定の範囲に金が連続して広がる「金箔」、瓦当面の表面にある細かい凹部など点状もしくは線状となって部分的に金が観察される「金」、下地あるいは接着剤として用いられた生漆と思われる「褐色付着物」、同じ目的で黒色漆が塗布されたと思われる「黒色付着物」の 4 種の状態が認められる。本来は「金箔」の状態が生産され屋根に葺かれたと思われるが、実際の資料はさまざまな理由で金箔が剥落し、結果としてこの 4 種が組み合わさった状態で観察される。図 1～5 は金箔の残存状況を示した模式図で、濃い赤色が「金箔」または「金」、ピンク色が「褐色付着物」または「黒色付着物」のそれぞれ範囲を示している。ここでは、4 種のうちのいずれかに当てはまるものを全て金箔瓦として認識している。

次に金箔が施された部位について検討する。瓦当紋様が展開する内区については、大きく紋様本体の凸部に金箔が施されるものと紋様のない地 (凹部) に金箔が施されるものに分けられる。軒丸瓦については三巴紋が紋様本体となると考えられ、三巴紋と珠紋の両方に金箔が押される事例はない。逆に紋様のない地 (凹部) に金箔が施されるものの中に、低い珠紋上に金箔が確認されるものがある。巴紋上部に金が確認されるものは、巴紋下半 (すなわち巴紋側面の後半部) に金箔の痕跡が認められないものが多

い。一方、地に金箔が施されるものには巴紋下半や巴紋尾部全面に金箔の痕跡が見られるものがある。

同様に軒平瓦についても、中心飾りが紋様本体となると考えられる。中心飾りには本来は全面に金箔が押されたと思われ、最終的に中心飾りの細かい凹部に金箔の痕跡が残るケースも確認される。中心飾りとその両側に展開する唐草紋の両方に金箔が押される事例は多くない。一方、地に金箔の痕跡が確認されるものは、中心飾りや唐草紋の下半 (すなわち紋様の凸部側面の後半部) に金箔の痕跡が認められるものが多い。

一方、紋様のない外区については残存状態の問題を除けば金箔の有無の分類は明瞭である。ただし、軒平瓦については両端部 (特に上位) に金箔が施されない事例が確認される。これは屋根を葺いた際に軒丸瓦が重複部分には金箔を施さず無駄に金を消費しない配慮と考えられる。

最後に、外区の内側面について検討する。内区の地または外区に金箔を施す際に、その端部に位置する外区の内側面に金箔の痕跡を残す事例が多く見られる。その場合、内区の地に金箔が押されたものは外区内側面の後方部 (下半) に、外区に金箔が押されたものは外区内側面の前方部 (上半) にそれぞれ漆状の付着物が確認されることが多い。外区の内側面は、その後の影響を受けにくい部位であることから金箔の痕跡が残存しやすい特徴があり、外区の内側面の観察から金箔の施された位置を推定できる場合もある。

上記の状況を踏まえ、分析対象となる 82 点の金箔押軒瓦について観察し (表 2)、金箔の施された範囲を下記の 6 類に区分した。

凹面金箔：内区の地の部分 (紋様の凸部以外の部分) に金箔が施されたもの。

凸面金箔 A：軒丸瓦の巴紋または軒平瓦の中心飾りと外区に金箔が施されたもの。

凸面金箔 B：軒丸瓦の巴紋または軒平瓦の中心飾りに金箔が施されたもので、外区に金箔の痕跡が確認できないもの。

凸面金箔 C：外区に金箔が施されたもので、軒丸瓦の巴紋または軒平瓦の中心飾りに金箔の痕

跡が確認できないもの。

凸面金箔 D：外区内側面の前方部（上半）に金箔の痕跡が残るが、軒丸瓦の巴紋または軒平瓦の中心飾りと外区に金箔痕跡が確認できないもの。

凸面金箔 E：軒平瓦の唐草紋に金箔が施されたもの。

ここでは、このうち後5者のタイプを全て凸面金箔として理解しておく。

#### 4. 清須城に関わる金箔押軒瓦

さて、清須城における出土金箔押軒瓦を集成した結果、瓦当面分類に対応して金箔の状態は特定の傾向を見せることが判明した。

軒丸瓦では、M122 型式、M123 型式、M124 型式、M261 型式、M441 型式が凸面金箔、M151 型式が凹面金箔に分類され、M161 型式は両方の資料が混在している。一方、軒平瓦では、H101 型式、H102 型式、H112 型式、H211 型式、H214 型式、H331 型式、H491 型式が凸面金箔、H111 型式と H199 型式が凹面金箔に整理できる。軒丸瓦 M161 型式は詳細に検討すると、本丸東面の区域で出土した資料（94A 区・96 区）では凹面金箔となるが、南辺の中堀の虎口付近（89B 区）で出土した1点のみが凸面金箔となっている。

中でも、凹面金箔に区分された軒丸瓦 M151 型式と軒平瓦 H111 型式は、型抜き後に内区外周部を浅い溝状に丁寧にミガキ調整が施される点が共通しており、清須城に関わる出土軒瓦の中でも古い特徴を持つと評価されている。このような資料に古い様相を示す凹面金箔が施される点をここでは留意しておきたい。

ここで浮上する大きな問題は、凹面金箔と凸面金箔が施されたそれぞれの時期をどう位置付けるかである。これについては、軒瓦の出土地点（いわゆる本丸か北曲輪）の傾向とコビキなど瓦自体のその他の特徴などを加味して検討しなければならないが、この点は後考に待つこととしたい。

最後に、本稿をまとめるに際しては、松井一明氏をはじめとする研究者に刺激されたことが、契機であったことを付記し、感謝申し上げたい。

#### 引用・参考文献

- 小澤一弘 1987 「清洲城下町遺跡出土の瓦について」『年報昭和 61 年度』愛知県埋蔵文化財センター
- 鈴木とよ江 1992 「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 27 集
- 鈴木正貴 1994 「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 53 集
- 鈴木正貴 1997 「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅶ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 70 集
- 鈴木正貴 2002 「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅷ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 99 集
- 中村博司 1978 「金箔瓦試論」『大阪城天守閣紀要 6』
- 中村博司 1995 「金箔瓦論考」『織豊城郭第 2 号』織豊期城郭研究会

M122 型式



M123 型式



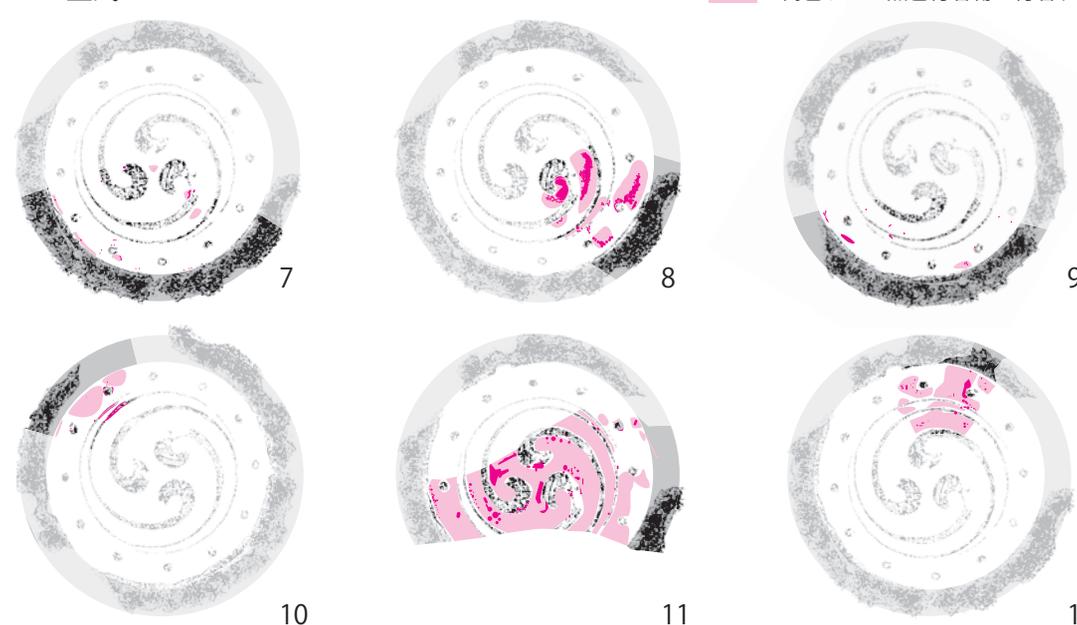
M124 型式



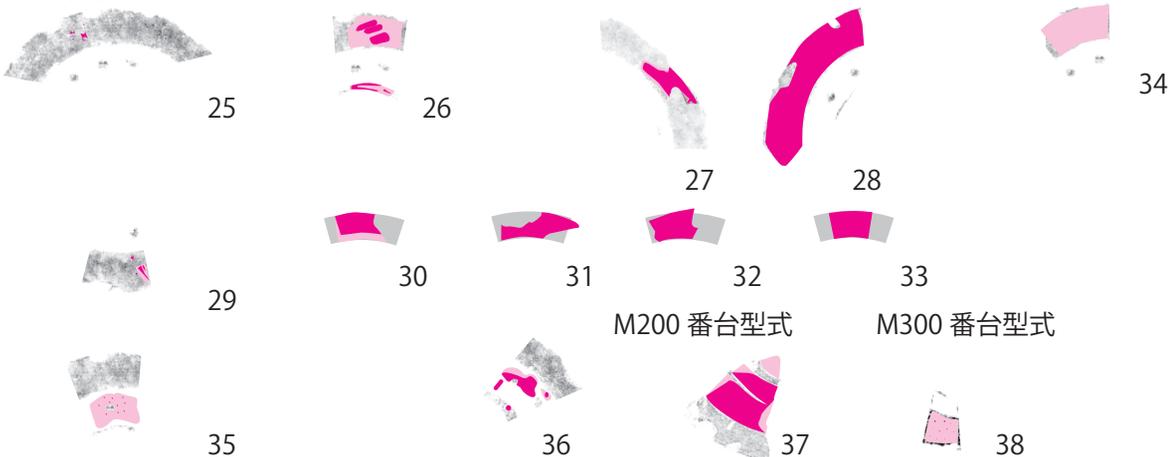
本図は金箔が施された部位を模式図として示したものであり、図示した拓本は大半はその資料のものではない。1~3、5、25~29、34~38は『清洲城下町遺跡Ⅷ』2182、7~12は『清洲城下町遺跡Ⅶ』692の拓本を使用した。4、6は本来の資料、30~33は幾何学的に作図した。

- 瓦当面（紋様部・凸部）が残存する範囲
- 瓦当面（紋様部・凸部）が欠損する範囲
- 金箔または金が付着する範囲
- 褐色または黒色付着物が付着する範囲

M151 型式



M100 番台型式



M200 番台型式

M300 番台型式

図1 金箔押軒丸瓦模式図(1)

## M161 型式



13



14



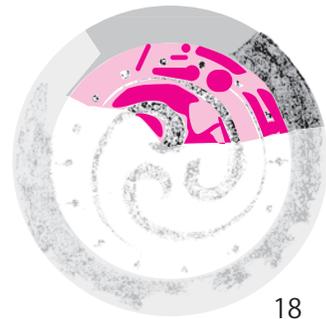
15



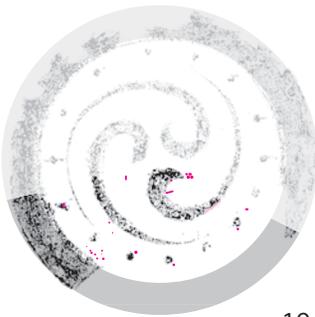
16



17



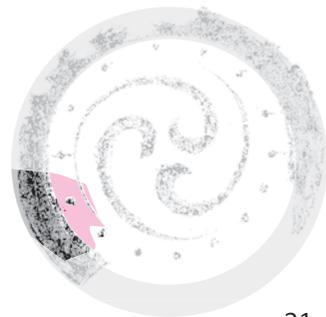
18



19



20



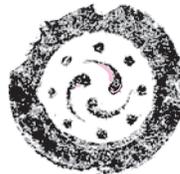
21

## M261 型式



22

## M441 型式



23



24

本図は金箔が施された部位を模式図として示したものであり、図示した拓本は大半はその資料のものではない。

13～21は『清洲城下町遺跡Ⅶ』700、23と24は『清洲城下町遺跡Ⅳ』1547の拓本を使用した。22は本来の資料の拓本を使用した。

■ 瓦当面（紋様部・凸部）が残存する範囲

■ 金箔または金が付着する範囲

■ 瓦当面（紋様部・凸部）が欠損する範囲

■ 褐色または黒色付着物が付着する範囲

図2 金箔押軒丸瓦模式図(2)

H101 型式



H102 型式



H111 型式



H199 型式

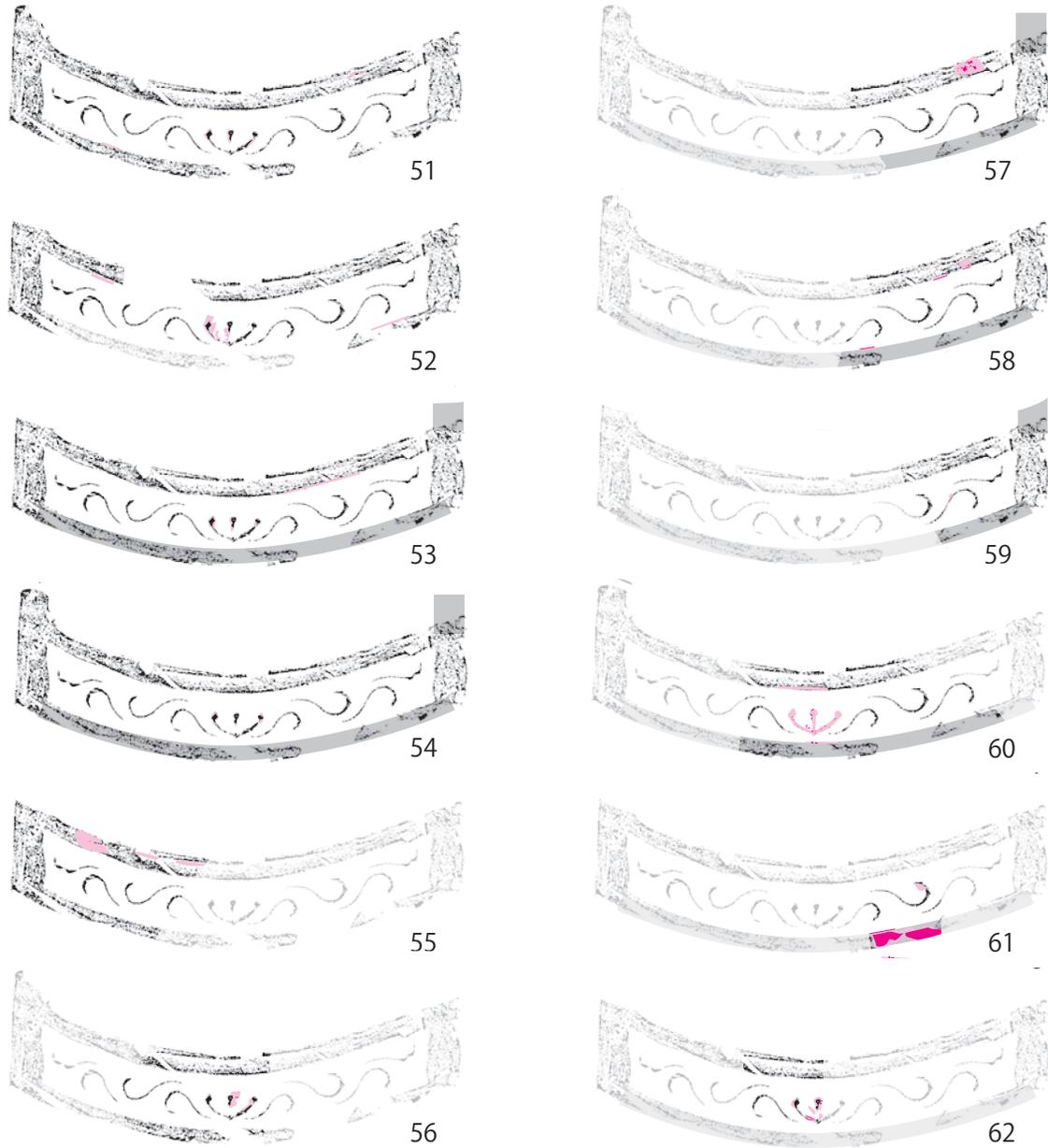


- 瓦当面（紋様部・凸部）が残存する範囲
- 瓦当面（紋様部・凸部）が欠損する範囲
- 金箔または金が付着する範囲
- 褐色または黒色付着物が付着する範囲

本図は金箔が施された部位を模式図として示したものであり、図示した拓本は大半はその資料のものではない。39～41は『清洲城下町遺跡VII』756、42～44は『清洲城下町遺跡VII』764、45～49は『清洲城下町遺跡VII』766の拓本を使用した。50は本来の資料の拓本を使用した。

図3 金箔押軒平瓦模式図(1)

H112 型式

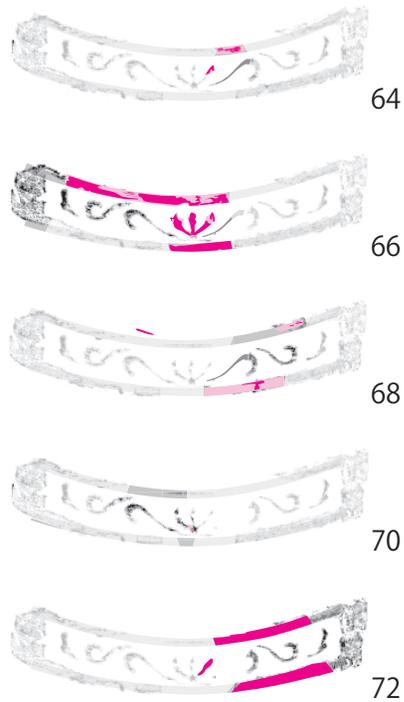
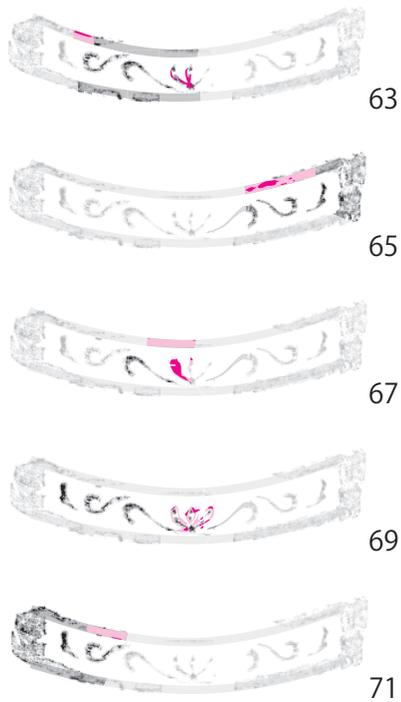


本図は金箔が施された部位を模式図として示したものであり、図示した拓本は大半はその資料のものではない。  
51～62は『清洲城下町遺跡VII』771の拓本を使用した。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ■ 瓦当面（紋様部・凸部）が残存する範囲 | ■ 金箔または金が付着する範囲     |
| ■ 瓦当面（紋様部・凸部）が欠損する範囲 | ■ 褐色または黒色付着物が付着する範囲 |

図4 金箔押軒平瓦模式図(2)

## H214 型式



## H211 型式



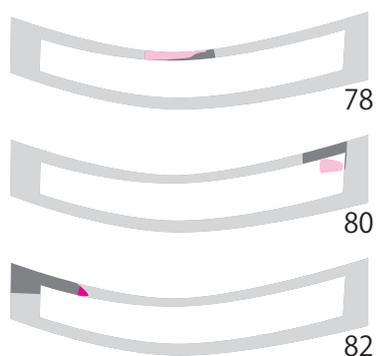
## H331 型式



## H491 型式



## H 不明型式



-  瓦当面（紋様部・凸部）が残存する範囲
-  瓦当面（紋様部・凸部）が欠損する範囲
-  金箔または金が付着する範囲
-  褐色または黒色付着物が付着する範囲

本図は金箔が施された部位を模式図として示したものであり、図示した拓本は大半はその資料のものではない。63～72は『清洲城下町遺跡Ⅷ』2306～2308の拓本を合成したもの、73は『清洲城下町遺跡Ⅷ』2302の拓本、74は『清洲城下町遺跡Ⅷ』2326と2327の拓本を合成したもの、75～77は『清洲城下町遺跡Ⅷ』2347の拓本を使用した。78～82は幾何学的に作図した。

図5 金箔押軒平瓦模式図(3)

表1 金箔押軒瓦一覽(1)

本稿番号	報告書	型式別整理番号	報告書図版番号	登録番号	型式	出土調査区
6	第27集Ⅱ	—	第106図-7	E-2126	M124型式	60B区
13	第27集Ⅱ	—	第107図-14	E-2133	M161型式	61A区
3	第27集Ⅱ	—	第107図-15	E-2134	M122型式	61A区
14	第53集Ⅳ	—	第173図-1541	89B-E-43	M161型式	89B区
23	第53集Ⅳ	—	第173図-1547	89E-E-105	M441型式	89E区
45	第53集Ⅳ	—	第174図-1552	63C-E-103	H111型式	63C区
50	第53集Ⅳ	—	第174図-1555	61A-E-74	H199型式	61A区
75	第53集Ⅳ	—	第174図-1556	89B-E-44	H491型式	89B区
—	第70集Ⅶ	M123a-94A-8	付表3軒丸瓦一覽表	—	所在不明	94A区
7	第70集Ⅶ	M151-94A-5	第59図-696	94A-E-542	M151型式	94A区
8	第70集Ⅶ	M151-94A-6	第59図-697	94A-E-543	M151型式	94A区
9	第70集Ⅶ	M151-94A-8	付表3軒丸瓦一覽表	—	M151型式	94A区
10	第70集Ⅶ	M151-94A-11	付表3軒丸瓦一覽表	—	M151型式	94A区
15	第70集Ⅶ	M161-94A-3	第60図-700	94A-E-546	M161型式	94A区
16	第70集Ⅶ	Mその他-92F-1	付表3軒丸瓦一覽表	—	M161型式	94A区
36	第70集Ⅶ	—	第65図-746	94A-E-590	M100番台型式	94A区
39	第70集Ⅶ	H101-94A-2	第66図-756	94A-E-602	H101型式	94A区
40	第70集Ⅶ	H101-94A-4	第66図-757	94A-E-604	H101型式	94A区
42	第70集Ⅶ	H102b-94A-2	第68図-763	94A-E-610	H102型式	94A区
46	第70集Ⅶ	H111-94A-3	第69図-766	94A-E-615	H111型式	94A区
47	第70集Ⅶ	H111-94A-12	付表4軒平瓦一覽表	—	H111型式	94A区
51	第70集Ⅶ	H112a-94A-1	第71図-771	94A-E-618	H112型式	94A区
52	第70集Ⅶ	H112a-94A-3	第72図-773	94A-E-620	H112型式	94A区
53	第70集Ⅶ	H112a-94A-11	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
54	第70集Ⅶ	H112a-94A-17	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
55	第70集Ⅶ	H112a-94A-31	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
—	第70集Ⅶ	H112a-94A-37	付表4軒平瓦一覽表	—	所在不明	94A区
56	第70集Ⅶ	H112a-94A-52	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
57	第70集Ⅶ	H112a-94A-68	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
58	第70集Ⅶ	H112a-94A-73	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
59	第70集Ⅶ	H112a-94A-74	付表4軒平瓦一覽表	—	H112型式	94A区
—	第70集Ⅶ	H341-94A-9	付表4軒平瓦一覽表	—	所在不明	94A区
78	第70集Ⅶ	H不明-94A-4	付表4軒平瓦一覽表	—	H不明型式	94A区
79	第70集Ⅶ	H不明-94A-7	付表4軒平瓦一覽表	—	H不明型式	94A区
80	第70集Ⅶ	H不明-94A-8	付表4軒平瓦一覽表	—	H不明型式	94A区
81	第70集Ⅶ	H不明-94A-26	付表4軒平瓦一覽表	—	H不明型式	94A区
22	第99集Ⅷ	—	第136図-2350	E-2350	M261型式	96区
11	第99集Ⅷ	—	第136図-2349	E-2349	M151型式	96区
4	第99集Ⅷ	—	第136図-2351	E-2351	M122型式か	96区
25	第99集Ⅷ	—	第136図-2352	E-2352	M100番台型式	96区
26	第99集Ⅷ	—	第136図-2353	E-2353	M100番台型式	96区
27	第99集Ⅷ	—	第136図-2354	E-2354	M100番台型式	96区
28	第99集Ⅷ	—	第136図-2355	E-2355	M100番台型式	96区
37	第99集Ⅷ	—	第136図-2356	E-2356	M200番台型式	96区
17	第99集Ⅷ	—	第137図-2357	E-2357	M161型式	96区

表1 金箔押軒瓦一覽(2)

本稿番号	報告書	型式別整理番号	報告書図版番号	登録番号	型式	出土調査区
5	第99集VII	金-16	第137図-2358	E-2358	M123型式か	96区
12	第99集VII	金-17	第137図-2359	E-2359	M151型式	96区
—	第99集VII	金-18	第137図-2360	E-2360	M100番台型式	96区
29	第99集VII	金-19	第137図-2361	E-2361	M100番台型式	96区
30	第99集VII	金-20	第137図-2362	E-2362	M100番台型式	96区
31	第99集VII	金-22	第137図-2364	E-2364	M100番台型式	96区
32	第99集VII	金-23	第137図-2365	E-2365	M100番台型式	96区
1	第99集VII	金-24	第137図-2366	E-2366	M122型式	96区
18	第99集VII	金-82	第137図-2367	E-2367	M161型式	96区
19	第99集VII	金-83	第137図-2368	E-2368	M161型式	96区
33	第99集VII	金-84	第137図-2369	E-2369	M100番台型式	96区
63	第99集VII	金-26	第138図-2370	E-2370	H214型式	96区
41	第99集VII	金-27	第138図-2371	E-2371	H101型式	96区
—	第99集VII	金-28	第138図-2372	E-2372	鬼瓦の一部	96区
64	第99集VII	金-29	第138図-2373	E-2373	H214型式	96区
76	第99集VII	金-30	第138図-2374	E-2374	H491型式	96区
48	第99集VII	金-31	第138図-2375	E-2375	H111型式	96区
49	第99集VII	金-70	第138図-2376	E-2376	H111型式	96区
43	第99集VII	金-71	第138図-2377	E-2377	H102型式	96区
60	第99集VII	金-72	第138図-2378	E-2378	H112型式	96区
74	第99集VII	金-73	第138図-2379	E-2379	H331型式	96区
65	第99集VII	金-74	第138図-2380	E-2380	H214型式	96区
61	第99集VII	金-75	第138図-2381	E-2381	H112型式	96区
66	第99集VII	金-76	第138図-2382	E-2382	H214型式	96区
67	第99集VII	金-77	第138図-2383	E-2383	H214型式	96区
68	第99集VII	金-78	第138図-2384	E-2384	H214型式	96区
69	第99集VII	金-79	第138図-2385	E-2385	H214型式	96区
77	第99集VII	金-81	第138図-2386	E-2386	H491型式	96区
2	第99集VII	2012埋文展264	未掲載(展示使用)	—	M122型式	96区
—	第99集VII	M122-166	軒丸瓦一覽表(2)	—	金箔の痕跡なし	96区
20	第99集VII	M161-1113	軒丸瓦一覽表(6)	—	M161型式	96区
34	第99集VII	M199-1930	軒丸瓦一覽表(6)	—	M100番台型式	96区
—	第99集VII	M199-342	軒丸瓦一覽表(7)	—	M100番台型式	96区
21	第99集VII	M231-1125	軒丸瓦一覽表(8)	—	M161型式か	96区
38	第99集VII	M341-1555	軒丸瓦一覽表(14)	—	M300番台型式	96区
24	第99集VII	M441-1934	軒丸瓦一覽表(16)	—	M441型式	96区
35	第99集VII	M不明-1693	軒丸瓦一覽表(21)	—	M100番台型式	96区
44	第99集VII	H102-139	軒平瓦一覽表(1)	—	H102型式	96区
62	第99集VII	H112-27	軒平瓦一覽表(2)	—	H112型式	96区
73	第99集VII	H211-1016	軒平瓦一覽表(3)	—	H211型式	97A区
72	第99集VII	H213-1015	軒平瓦一覽表(3)	—	H214型式	96区
70	第99集VII	H214-547	軒平瓦一覽表(4)	—	H214型式	96区
71	第99集VII	H新種-777	軒平瓦一覽表(8)	—	H214型式	96区
82	第99集VII	H不明-605	軒平瓦一覽表(12)	—	H不明型式	96区
—	第99集VII	H不明-767	軒平瓦一覽表(14)	—	金箔の痕跡なし	96区

表2 金箔押軒瓦の金箔観察表(1)

番号	型式	金箔分類	内区	外区	外区内側面
1	M122型式	凸面金箔A	巴紋凸部の大部分に黒色付着物+金箔	大部分に黒色付着物+金箔	付着物なし
2	M122型式	凸面金箔A	巴紋凸部のほぼ全面に黒色付着物+金箔	全面に黒色付着物+金箔	前方の一部に黒色付着物
3	M122型式	凸面金箔A	巴紋全面に薄く褐色付着物(金箔と無関係かも?)	一部に金(点状)	付着物なし
4	M122型式か	凸面金箔A	巴紋大部分に黒色付着物+金箔	大部分に黒色付着物+金箔	前方の一部に黒色付着物
5	M123型式か	凸面金箔A	巴紋凸部の大部分に黒色付着物+金箔	大部分に黒色付着物+金箔	前方の一部に黒色付着物+金
6	M124型式	凸面金箔A	巴紋(側面中心)の一部に黒色付着物+金	一部に黒色付着物+金	前方の一部に黒色付着物+金
7	M151型式	凹面金箔	地の一部と巴紋(側面中心)に褐色付着物+金	付着物なし	後方の一部に褐色付着物+金
8	M151型式	凹面金箔	地の大部分と巴紋(側面中心)に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
9	M151型式	凹面金箔	地の一部と珠紋(側面中心)に褐色付着物+金	付着物なし	後方の一部に褐色付着物
10	M151型式	凹面金箔	地と珠紋側面と巴紋側面の一部に黒色付着物+金	付着物なし	後方の一部に黒色付着物+金
11	M151型式	凹面金箔	地と巴紋(側面中心)の大部分に褐色付着物+金	付着物なし	後方の一部に褐色付着物+金
12	M151型式	凹面金箔	地と巴紋尾部の一部に褐色付着物+金	付着物なし	後方の一部に褐色付着物+金箔
13	M161型式	凹面金箔	地と巴紋と珠紋の一部に黒色付着物+金	付着物なし	後方半分に黒色付着物
14	M161型式	凸面金箔A	巴紋の一部に褐色付着物+金	一部に褐色付着物+金	付着物なし
15	M161型式	凹面金箔	地と巴紋側面の一部に黒色付着物+金	付着物なし	付着物なし
16	M161型式	凹面金箔	地と珠紋と巴紋尾部の大部分に黒色付着物+金箔	付着物なし	後方の一部に黒色付着物+金箔
17	M161型式	凹面金箔	地と巴紋側面の一部に褐色付着物+金	—	—
18	M161型式	凹面金箔	地と珠紋の大部分に褐色付着物+金箔	付着物なし	後方の一部に褐色付着物+金箔
19	M161型式	凹面金箔	地と珠紋の一部に褐色付着物+金箔	付着物なし	付着物なし
20	M161型式	凹面金箔	地の一部に金	付着物なし	付着物なし
21	M161型式か	凹面金箔	地の一部に褐色付着物+金	付着物なし	後方の一部に褐色付着物
22	M261型式	凸面金箔A	巴紋大部分に薄く褐色付着物+一部に金	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物+金
23	M441型式	凸面金箔B	巴紋側面の一部に褐色付着物	付着物なし	付着物なし
24	M441型式	凸面金箔A	巴紋大部分に黒色付着物+金箔	大部分に黒色付着物+金箔	前方の一部に黒色付着物+金箔
25	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に金	付着物なし
26	M100番台型式	凸面金箔A	巴紋凸部の大部分に薄く金	大部分に薄く金	付着物なし
27	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に黒色付着物+金	付着物なし
28	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物+金
29	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に黒色付着物+金	付着物なし
30	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物+金
31	M100番台型式	凸面金箔A	巴紋凸部の大部分に黒色付着物+薄い金	全面黒色付着物+薄い金	前方の一部に黒色付着物
32	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	全面黒色付着物+薄い金	前方の一部に黒色付着物
33	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物+金
34	M100番台型式	凸面金箔C	付着物なし	褐色付着物+一部に金	付着物なし
35	M100番台型式	凹面金箔	地の一部に褐色付着物+金	—	—
36	M100番台型式	凹面金箔	地と珠紋と巴紋尾部の大部分に黒色付着物+金箔	付着物なし	後方の一部に黒色付着物+金
37	M200番台型式	凹面金箔	地と珠紋と巴紋尾部の大部分に黒色付着物+金箔	付着物なし	後方の一部に黒色付着物+金箔
38	M300番台型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に褐色付着物+金	付着物なし
39	H101型式	凸面金箔B	桐紋の凹部を中心に褐色付着物	付着物なし	付着物なし
40	H101型式	凸面金箔B	桐紋側面の一部に褐色付着物	付着物なし	付着物なし
41	H101型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に黒色付着物+金箔	前方の一部に黒色付着物
42	H102型式	凸面金箔B	桐紋の側面を中心に褐色付着物+金	付着物なし	上顎前方の一部に黒色付着物+金

表2 金箔押軒瓦の金箔観察表(2)

番号	型式	金箔分類	内区	外区	外区内側面
43	H102型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物
44	H102型式	凸面金箔B	桐紋凹部(側面)の一部に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
45	H111型式	凹面金箔	地と三子葉紋と第一唐草紋の一部に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
46	H111型式	凹面金箔	地と第1唐草紋側面の一部に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
47	H111型式	凹面金箔	地と第1唐草紋側面の一部に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
48	H111型式	凹面金箔	右隅の地に金箔	付着物なし	付着物なし
49	H111型式	凹面金箔	地と唐草紋側面の一部に黒色付着物+金箔	付着物なし	後方の一部に黒色付着物
50	H199型式	凹面金箔	地の一部に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
51	H112型式	凸面金箔A	三子葉紋側面の一部に褐色付着物+金	一部に褐色付着物	下顎前方の一部に褐色付着物
52	H112型式	凸面金箔B	三子葉紋側面と脇の一部に褐色付着物	付着物なし	前方の一部に茶色付着物+金
53	H112型式	凸面金箔B	三子葉紋側面の一部に黒色付着物+金	付着物なし	上顎前方の一部に黒色付着物+金
54	H112型式	凸面金箔B	三子葉紋側面の一部に黒色付着物	付着物なし	付着物なし
55	H112型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に黒色付着物+金	上顎前方の一部に黒色付着物
56	H112型式	凸面金箔B	三子葉紋側面と脇の一部に褐色付着物+金	付着物なし	付着物なし
57	H112型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に黒色付着物+金	付着物なし
58	H112型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に黒色付着物+金	両顎前方の一部に黒色付着物+金
59	H112型式	凸面金箔E	第3唐草紋側面の一部に黒色付着物	付着物なし	付着物なし
60	H112型式	凸面金箔A	三子葉紋の一部に黒色付着物+金	一部に黒色付着物+金	前方の一部に黒色付着物
61	H112型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物+金箔
62	H112型式	凸面金箔A	三子葉紋側面と脇の一部に褐色付着物+金	大部分に薄く褐色付着物	付着物なし
63	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋側面と脇の一部に褐色付着物+金	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物+金
64	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋側面と脇の一部に褐色付着物+金	一部に褐色付着物+金	付着物なし
65	H214型式	凸面金箔C	付着物なし	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物+金
66	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋ほぼ全面に褐色付着物+金箔	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物
67	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋ほぼ全面に褐色付着物+金箔	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物+金
68	H214型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物+金
69	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋側面と脇の一部に褐色付着物+金	—	—
70	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋側面の一部に褐色付着物+金	—	—
71	H214型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物
72	H214型式	凸面金箔A	三子葉紋側面の一部に褐色付着物+金	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物+金箔
73	H211型式	凸面金箔A	三子葉紋と唐草紋の一部に褐色付着物+金箔	一部に褐色付着物+金	前方の一部に褐色付着物+金
74	H331型式	凸面金箔A	桔梗紋全面に褐色付着物+金箔	一部に褐色付着物+金	付着物なし
75	H491型式	凸面金箔A	全面に黒色付着物+唐草紋(側面中心)に金	一部に黒色付着物+金	一部に黒色付着物+金
76	H491型式	凸面金箔A	全面に褐色付着物+唐草紋(側面中心)に金	一部に褐色付着物+金	一部に褐色付着物+金
77	H491型式	凸面金箔A	唐草紋凸部の一部に褐色付着物+金箔	大部分に褐色付着物+金箔	前方の一部に褐色付着物+金箔
78	H不明型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に黒色付着物	上顎前方の一部に黒色付着物
79	H不明型式	凸面金箔D	—	付着物なし	上顎前方の一部に褐色付着物
80	H不明型式	凹面金箔	地の一部に褐色付着物	付着物なし	上顎後方の一部に褐色付着物+金
81	H不明型式	凸面金箔D	付着物なし	付着物なし	上顎前方の一部に黒色付着物
82	H不明型式	凸面金箔C	付着物なし	一部に金箔	付着物なし